

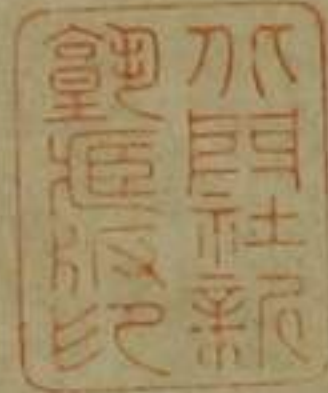
門儿84  
2094  
卷

慶應丁卯新刊

岡本文平著

# 北蝦夷新志

北門社藏版



北蝦夷新志序

牙

北蝦夷之不可忽。古今之所論也。徒論無益矣。余竊有慨於此。嘗行奧地。圖記之。觀者多勸梓之。余曰。世無人欵。進取開拓。何待余言。苟有人也。長喙三尺。適足以致譏耳。既而又曰。古今人行北地。無能得要領者。故不有進取開拓之舉而已。乃韓綴犬畧。以授剗氏。有志者。讀之。有取焉。則異日



北蝦夷新志序

全島化我政教日開月拓者焉。知不造端於此。是余區々之至情。所以不願世譏而有此舉也。

慶應丁卯仲冬岡本文平識



北蝦夷新志序

銜五洲之新聞大言惑衆是方今士夫之累也。廷一國之私論閑居議政是亦方今士夫之累也。如岡本文平者其有見於此乎。文平阿波產也。

為人好奇節嘗慨然一周北  
蝦夷亦甚苦心矣文平與余  
有旧近處余之門下因得備  
聞其志文平之言曰蝦夷島  
自有官司于今十年地氣漸  
開粗有可見者而 國家多

故未暇遠略是可嘆也嗚乎  
肉食者鄙余又何言願四方  
學士大夫能輔政人之志而  
為之規畫有進取之策而無  
惑衆之弊有踐履之實而無  
議政之失是余之志也亦文

平之志也頃者其所著北蝦夷新志刻成為書數言以冠之

慶應三年丁卯十有一月侍從藤原公考撰并書

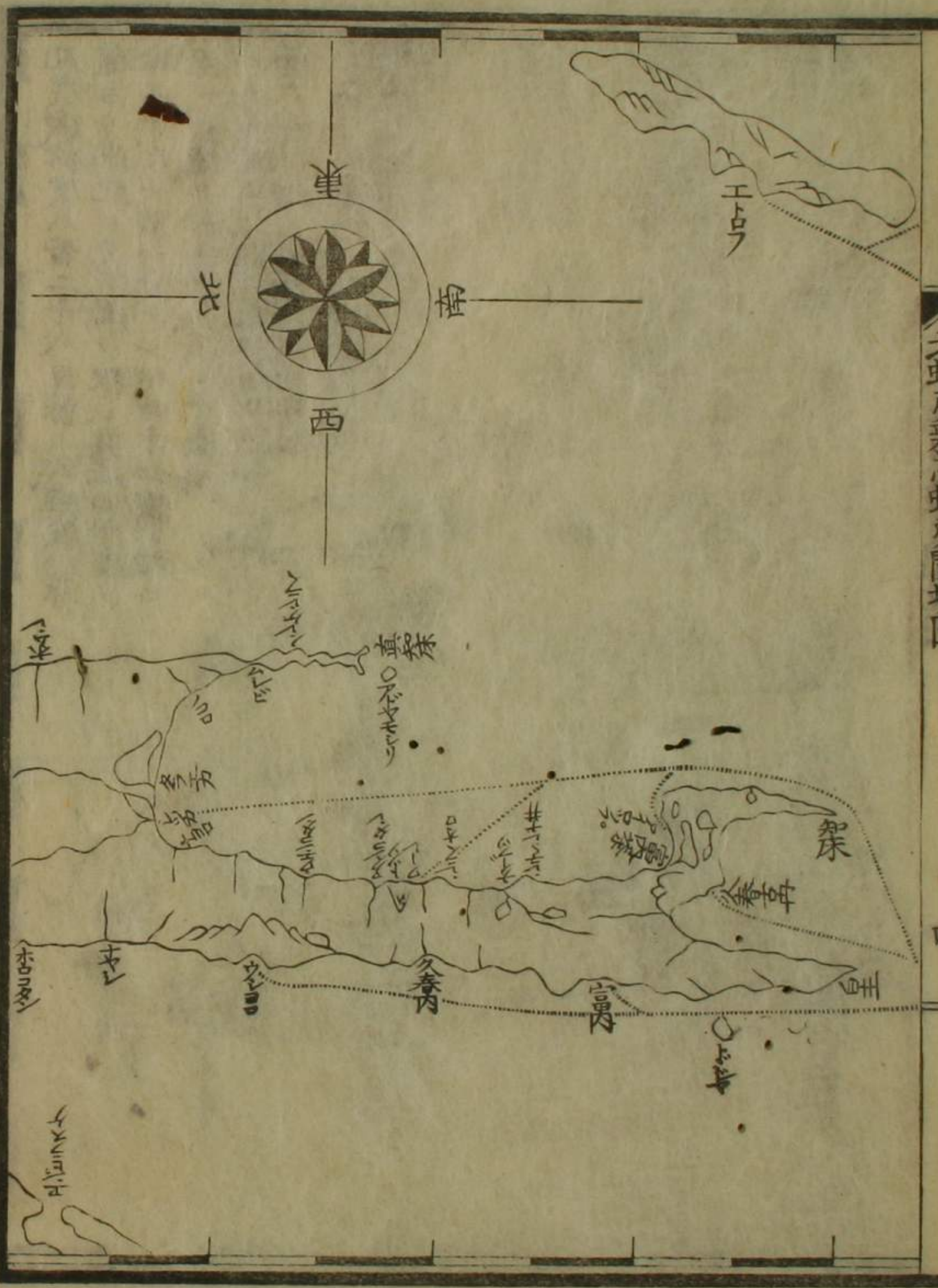
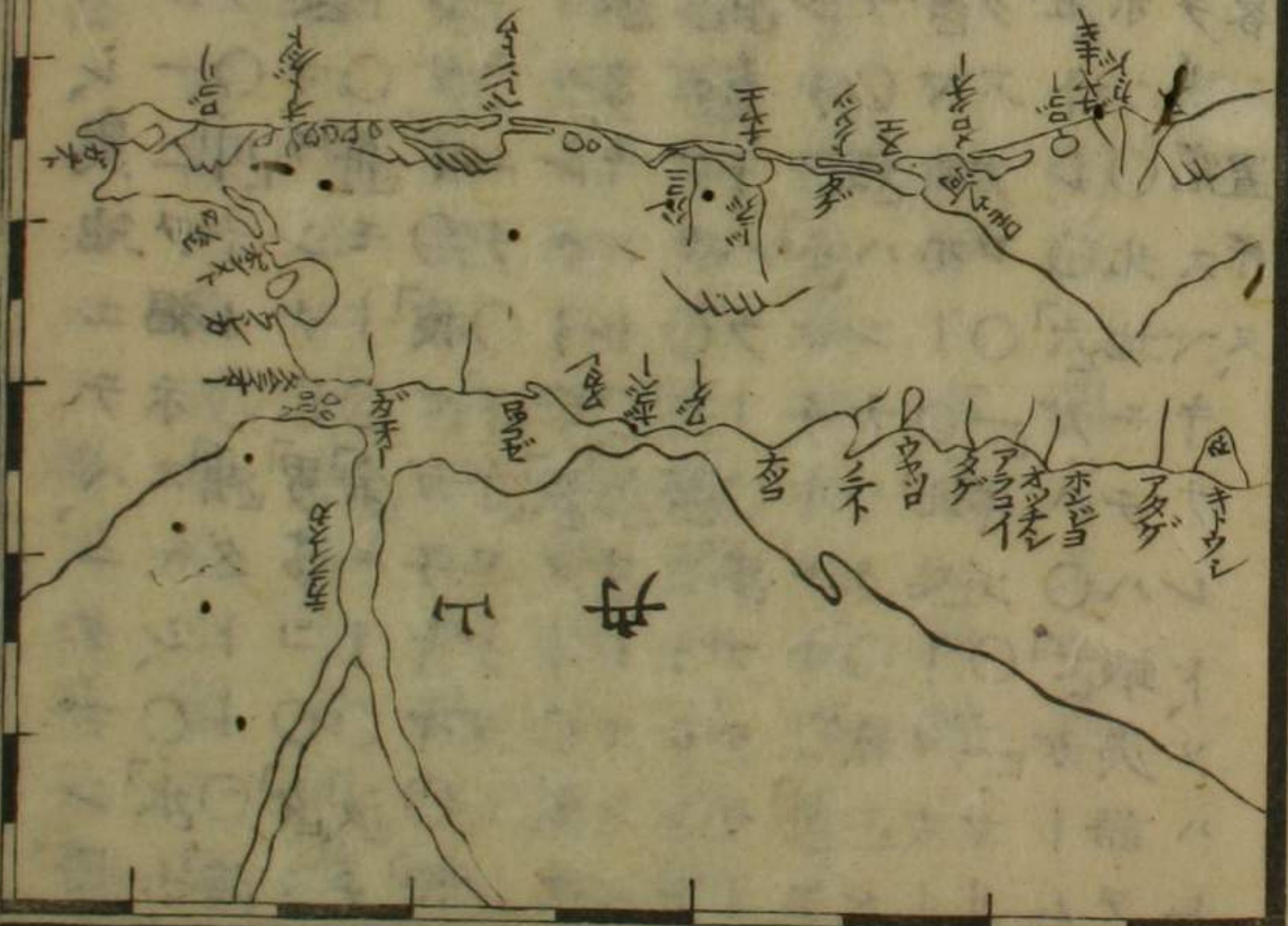


凡度數緯度八皆二十八里餘ト云、經度八赤道ヨリ南北ニ至テ漸ク狹シ其法四十度ノ地ニテ、凡一里六分ナレバ、四十度ノ地ニ至テ、凡里二分トナル、而シテ南島ハ四十度六七分ノ処ヨリ、四十度ノ外ニ至リ、北島ハ四十五度ハ九分ノ処ヨリ、五十四度ノ外ニ至ルナリ



北蝦夷新志序 藤原公考撰并書

縫江  
 洪河數十里遠自西南際對  
 岸山斷續一望魚蒙翳樹色  
 何鬱蒼衆鳥此回翔地形霸  
 王畧物象仙人鄉家比多傍  
 水各自相遷徙百年無賦役  
 釣漁代耘耔視我笑嫣然語  
 且見精神俗則化外樣心爲  
 中州民比羅夫已矣餘風今  
 安在空談紙上文邈哉一千  
 載天邊日光薄海角腥風惡  
 誰驅蓬戶者開壑力東作願  
 陪命世雄隨分效孤忠苟存  
 經遠志何圖一時功



七虫房乘八虫房屋土區

夷地ヲ附録ニクハ夷語ヲ知ベシ、奥地ニテハ、ニクブ  
 急務トス、今其至要ナル一川イヲ掲示ス、ベク  
 ヤカト遠クナシ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 ガ盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 ナ○盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 来、ナ○盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 食、ナ○盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 當、ナ○盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 馳、ナ○盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 往、ナ○盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 モ、ナ○盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 ゴ、ナ○盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 名、ナ○盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 三、ナ○盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 カ、ナ○盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 法、ナ○盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク  
 通、ナ○盗ルモ、チロ、山バ、川イヲ掲示ス、ベク

北蝦夷新志

阿波岡本父平著

紀伊山東一郎閱



余幼ヨリ蝦夷ニ志アリテ、常ニ奥地ヲ巡視セマク  
 欲シキ文久癸亥ノ四月、遂ニ江戸ヲ發シ、六月、箱館  
 ニ到リ、獨歩シテ北地ニ赴キ、七月晦、西岸ナヤシマ  
 デ進ケルガ、氣候漸ク寒キニ向タルヲモテ、悒ヒト  
 シテ空ク歸リ、箱館ニ居タリシニ、明年、ツカ河邊  
 在住ノ命ヲ蒙リツレバ、河源ニ住シ、奥地ヲ圖ラン  
 ト工夫セシカド、未タ意ノ如スルヲ得ズ、慶應元年、

五月、余畢ニ足輕西村傳九郎チフモノト、同シクワ  
ーレヲ發シ、タラエカニ到リ蝦夷船一隻ヲ買テ、糧  
食等ヲ用意シ、閏五月、真知床ヲ廻リ、六月、又エニ到  
リ、七月、ガヲト岬ヲ廻リテ、西南「ホンメト」ウシカ、夕  
ムラオーノ諸處ヲ經テ、黒龍江口ニ至リ、東韃ヲ二  
三里ノ外ニ望ミキ、余ハ黒龍ニ泝リ、魯韃人ノ情由  
ヲ探索セント、發憤シケルガ、衆ノ與セサルヲモテ、  
已ヲ得ズ、歸計ヲ決シ、廿三日、「ウシヨロ」ニ歸着シ、又、  
此般旅行ノ間ハ、毎日丸小屋ニ野宿シ、或ハ風雨ノ  
為ニ逗留ナドシテ、頗ル艱難ナリシカ、凡「ロモウヨ

リ、黒龍江口マデハ、古來「本邦人」ノ足跡ヲ絶タル  
地ナリトシ、吾輩二人ノ始テ檢視シヌルハ、愉快ト  
自負スルモ可ナランカ、區々ノ小島ナルヲ一周ス  
ルニ、三年ノ久シキニ至ハ、自ラ其故アリ、余ガカガ  
ルニハ非サルナリ、今其島中ニ、余ガ見込アル諸處  
ヲ舉テ、揭示スベシ、志士ノ深ク注意セラレン「ト」ヲ  
願ノミ、余思ニ北蝦ノ地タル、周回七百里内外ナル  
ベレ、目前ニ捕魚ノ利多ク、極北奥地ノ夷マデ、本  
邦ヲ慕テ、早ク開拓ノ舉アラマク願ヘルハ、天意ノ  
專ニ皇國ニ屬セルヲ見ニ足ナリ、今ニシテ省



北段 蝦夷地  
ミズハヤガテ歟答アルニ  
ニ勞苦センヨリハ北地ニ  
タランニハ余ガ言ノ妄ナ  
白主<sup>シラシ</sup> 松前ノ北二百餘里ニ  
海程十八里ト云其地氣候惡  
下ニ住シテ可ナリ  
久春古丹<sup>クシユンコタン</sup> 白主ノ東北三十  
要害ナリ港中大船數百艘ヲ泊  
美諸物繁生ス東西十里南北  
北海中ノ大馬頭トナラン

知床岬<sup>チドクサキ</sup> 久春古丹ノ南東ニ  
相對ス海岸皆山ナレ氏海路ハ  
アレバ洋中ニ下碇センモ可ナ  
ア井口ツプ 知床ノ北二十里  
ス奥地ニ往來スルモノ常ニ下  
アリ  
シラ、オロ ア井口ツプノ北  
突出シテ屏障ノ如ク向陽温暖  
中大船ヲ泊スベシ鯨多シ三里  
モ良港ト称ス二三艘ヲ泊ス

マクシコタン 灣中大船ヲ泊スベシ、地勢奥曠ナリ、南方ニ「トツソ」山アリ、突兀トシテ雲間ニ挿ム、舟人ノ目的トスル所ナリ、

ナヨロ 山下平坦ニシテ、樹木多シ、河水絶佳ナリ、居住スベシ、

レツカ 河口廣サ百間、深サ八尺許アリ、鱒多シ、其地全島ノ胸腹ニシテ、東西二十里、南北百餘里モアルベシ、土性美惡一ナラズ、「ワレ」ヨリ、凡四十里許、

タラエカ 湖傍十餘家アリ、湖圍二十里ニ過ベシ、一望際ナシ、  
入春古世ハ南東ニシテ、白土イ

ノコロ 澤中一河アリ、深サ四尺餘ニ至ル、鱒多シ、山下ニニクブン夷一家アリ、河ニ沿ヒ山ヲ穿テ、東岸「チヤ」モキニ往來ス、二日程ナリト云、タラエカヨリ、此際八九里、都テ沙濱ナリ、山遠ク落葉松多シ、

カソクニ 濱海礁石、二里ノ間ニ連ナル、鍊多シ、小河アリ、鱒ヲ出ス、河口ニ三百石ノ船ヲ泊スベシ、「ノコロ」ヨリ五里許、多ハ絶壁ナリ、風雨アレバ通行シガタシ、ムシビ カソクニノ南、四五里ニシテ、地勢綫ノ如ク、東西十丁許ナルベシ、中ニ湖アリ、頗ル深シ、陸地廣サ六七十間、高サ二丈ニ過ズ、「ロモウ」ニ往來センニ、疎鑿

セバ、大艦ヲ通ズベク、亦碇泊シテ、風順ヲ待ニ宜シ、  
エシムカムシビノ南五里許ニシテ、山アリ、頗ル  
高峻ナリ、蓋シ「ノコロヨリ」已南、岡阜斷續シテ、五葉松  
ノ多シ、タゞ此山ニハ、擬及ビ落葉松ナドヲ産ス、極  
テ秀麗ナリ、

カバシベ、エシムカノ南十里許ナル沙岬ニテ、真  
知床ト相對ス、海馬懸シ、南方二三里ノ洋中ニ、一小島  
ヲ望ムラ、アドマモシリトス、又晴空ニハ、「マクシコタ  
シ」諸處ノ山ヲ望ムトゾ、  
真知床シシトカバシベノ東南二里、出岬ニテ、大巖十丁

許アルベシ、高サ十丈ニ垂シ、小ス、鳧ノト極テ夥シ  
ク、卵ヲ産シテ、寸隙ヲ留ズ、撥テ食ニ頗ル奇品ナリ、  
ノレケシラハ、知床ヲ廻テ、北ムシビニ至ル、凡十五  
六里、岡陵多ク、西岸ノ如シ、中間大岩岬アルヲ、ハシケ  
シラトス、彎曲アリテ、船ヲ泊スベシ、  
ホムシ河水深サ、臍上ニ至ル、鱒多シ、稍北シテ岬ト  
ナル、岬南船ヲ泊スベシ、「ムシビヨリ」此際二十五六里、  
海岸皆山ニテ、往々瀑布多シ、小灣アリ、小舟ヲ繫ベシ、  
又ホムシノ北七八里ニシテ、一河アリ、深サ六七尺  
ニ下ラス、鱒多シ、「ホムシヨリ」此際更ニ三河アリ、「ホム

正ニ近キ一河、深廿二尺餘ニ至ル、又ニ近キ二河、大サ  
前ノ如シ、皆鱒多シト云、中間山脉稍遠シ、乾位一山、巍  
然トシテ碧空ニ聳ユ、舟人ノ目的トスベキモノナリ、  
ガシバ、又ヨリ七八里ニシテ、一大岬トナリ、大巖四  
里ノ外ニ連ナル、亂石海面ニ離立スルモノ勝テ數ベ  
カラズ、千態萬狀、人目ヲ驚ス、其間一河アルヲ、ウエン  
コタンナ井トス、深廿腰ニ至ル、又灣曲アリ、船ヲ泊ス  
ベシ、ムンビノ山脉、此ニ至テ西北ニ一轉ス、距海凡三  
里許ナルベシ、海岸皆平砂ナリ、  
チヤーモキ、ガシバノ北、四里許ニシテ、河傍ニクブ

ン夷ニ家アリ、東北岡陵ヲ負テ、頗ル温ニ、土性極テ美  
ナリ、  
ロゴオー、ナヤーモキノ北八九里ニシテ、湖アリ、圍  
二里許ナルベシ、湖口深廿五尺ニ至ル、鱒多シ、ニクブ  
ン夷九家アリ、  
メロクオー、湖アリ、圍六七里ニシテ、中ニ二三ノ小  
嶼アリ、鮭鱒雜魚多ク時トシテ鯨アリ、湖口廣廿三百  
間、深廿三尋ニ下ラズ、内ニ入テハ益深シ、其勢東南ニ  
長ク、距海甚ダ遠カラズ、ニクブン夷八家、オロッコ、夷七  
家アリ、ロゴオーヨリ、凡十里許ニシテ、海岸皆平沙ナ

リ、  
又エ メロクオ」ノ北七八里ニシテ、大湖アリ、海ニ  
注ク、廣サ四五百間、中央甚ダ深ク、内ニ入テ四五尋ノ  
処アリ、或ハ二三尋ノ處アリ、一様ナラズ、西方山遠ク  
湖傍樅多シ、大木森然タリ、真ニ良材ナリ、西南里餘ノ  
處、口モウ河ロアリ、廣サ百間、深サ三尋ニ下ラズ、鮭極  
テ夥シ、奥地第一ノ好漁場ト称ス、河上ニクブン夷十  
七村三十家アリ、湖勢北ニ向テ、距海四五丁ニ過ズ、湖  
口ノ南ニ七家、北ニ十家アリ、又北四五里許ニ、七家ア  
ルヲ、トクメツトシ、二家アルヲ、トオトス、其間ニ

才ロ、コ夷五家アルヲ、タゲ、湖ロアリ、廣サ二百間  
ニ過ベシ、此邊土廣ク水美ニシテ、居住スベシ、又エノ  
如キハ、湖中ニ大艦數百艘ヲ容ベシ、居城ヲ營シテ、北  
海ニ雄飛スベキ地ナリ、  
チヤエ 又エノ北十里ニアリ、大湖東西里餘ニシテ、  
又エ湖ト、一線連接ノ處、甚ダ淺ク、舟ヲ盪テ泥行スル  
バカリナリ、湖西平山、樹木多シ、山ニ傍テ、才ロ、コ夷三  
家アルヲ、ベレンゲトシ、七家アルヲ、トラバトス、一河  
アリ、頗ル大ニシテ、鮭ヲ出ス、極テ夥シ、湖東又才ロ、  
コ夷二家、ニクブン夷四家アリ、稍北スル處、湖口ナリ、

廣廿七八丁モアルベシ、中央大艦ヲ通ズベシ、北岸ニクブン夷十五六家アリ、コレヲ「チヤエト」ス、此邊少シク出岬ナリ、西方一山アリ、五六里ノ外ニ在ガ如シ、又北二里許ニシテ、オロコ夷二家アルヲ「アゲト」ス、湖勢漸ク狭シ、

ハルコニス「アゲ」ノ北五里許ニシテ、三河アリ、湖ニ注ク、最大ナルヲ「ハルコ」ニトス、鮭アリ、極テ夥シ、河傍ニクブン夷二家アリ、此ヨリ北、湖勢甚ダ細ク、三里許ニシテ盡レバ、又三湖アリ、コレヲ過テ「ベレントウ」ニ出ヅ、其間皆陸ニ舟ヲ盪ナリ、

ベレントウ、湖中鮭鱒多ク、又鯨アリ、水豹多シ、湖勢南五六里ノ間ハ、廣廿四五丁ニ過ズ、距海甚ダ近ニ、五六里ノ北ニ至テ「ロ」アリ、廣廿二百間、深廿二三尋ニ至ル、西岸ニクブン夷十八家アリ、沙岡五葉松ノミヲ産ス、北行里餘ニシテ、右ニオロコ夷一家、左ニ四家アリ、湖勢廣ク、北方十里ノ外ニ連ナリテ、涯際ナキガ如シ、西北三四里ノ外、大山横立シテ、湖ニ枕ス、形勢甚ダ雄ナリ、湖口「チヤエ」ヨリ、凡十七八里、オートグット、湖口海ニ注ク、深廿腰ニ至ル、湖東、高阜上ニクブン夷一家アリ、ベレントウノ湖口ヨリ、十七

八里ト云、南「ベ」レントウヨリ來テ、小湖五六アリ、一湖ノ口、廣廿二三百間モアルベシ、又北「ロゴリ」ニ至テ、三里許ニシテ、更ニ數小湖アリ、土人皆舟ヲ陸ニ蓋テ、湖中ヲ往來ス、其間地勢弓ノ如ク、「ロゴリ」ニ至テ止ム、ニクブン夷一家アリ、西方一里ノ外ニ、三峯駢列スルヲ、「ロバラ」ト名ク、夷語大山ノ義ナリ、ガヲト「ロゴリ」ノ西北十餘里ニシテ、湖口ニクブン夷八家アリ、湖勢南東ニ長ク、圍三里許ナルベシ、其口深廿五尺ニ至ル、鱒多シ、「ロゴリ」ヨリ、此際石山連綿トシテ、山上多ク五葉松ヲ産、巖下往々ニ跡ヲ容ズ、山

ヲ攀テ僅ニ通ズベシ、潮路急疾ナレ氏、小灣多シ、小舟往來モ、常ニ妨ナシ、「ガヲト」ノ東北、二里ノ外ニ至テ、島勢窮盡ス、岬頭土山甚ダ雄ニ、水際礁石列峙シテ、鋸齒ノ如シ、一轉シ、「ガヲト」ニ向テ灣トナル、巨艦ヲ泊スベシ、凡東岸真知床ヨリ、此ニ至マデ、一百四五十里、層巒人絶テ探討スルモノナシ、マケケガヲト 五家アリ、「ガヲト」ノ西、二里ニアリ、此ヨリ西北里餘ナレバ、一大岬トナリ、地勢南方ニ一轉ス、岬頭「ガヲト」岬ト相對ス、凡四五里、ベロオー マケケガヲトヨリ十里許ニシテ、河傍三

家アリ、海岸土山崩墜シテ、數里ニ連延ス、正北三里ノ  
処ヲ「トメ」トス、一家アリ、正南三里ヲ「トツカ」ト云ニ家  
アリ  
ムシビ トツカノ南西、三里ニシテ、三家アリ、東北口  
ゴリ山ヲ望ム、東南湖水甚ダ長シ、湖ニ浮テ東岸ニ往  
來ス甚ダ近シ

ポンメト ムシビノ南西、六里許ニシテ、湖口アリ、三  
百間ニ過ベシ、湖勢北ニ向テ、ムシビノ旁ニ至ル湖口  
ノ南小山アリ、擬多シ、山下十三家アリ、風景絶佳ナリ、  
地勢一轉シテ申未ヲ指ス、濱海多ハ遠淺ナリ

ガルオー ポンメトノ西南、三里許ニシテ一家アリ  
西方一里ノ外ニ、小嶼アリ、海水南ニ向テ彎入シ、濶然  
トシテ廣ク、舟泊安穩ナリ、少ク南シテ、三村六家アリ  
其中四家アルヲ「ハニボク」トトス、  
ウシカ ハニボクトト、小嶼ヲ隔テ、東西相對ス、凡三  
里許ナルベシ、十七家アリ、海水南ニ至テ、甚ダ廣シ、碇  
泊便利ナリ、

タムラオー ウシカノ西南ニアリ、沙岬南ニ轉シテ、  
十三家アリ、西方東韃山ヲ望ニ、二三里ニ過ズ、島嶼二  
三アリテ羅列ス、海面多ハ遠淺ニテ、舟ヲ通ジガタク



土人木ヲ水中ニ植テ、水路ヲ表シタリ、ウシカヨリ、此  
際凡七里許ニシテ、「チヤントオ」オツトオ「ナド、五  
村三十三家アリ、鮭多シ、土人皆海中ニ網ヲ引トゾ  
ガニオ一 一河アリ、深サ腰ニ至ル、河傍三家アリ、夕  
ムラオ「ヨリ、凡六里許ニシテ、ボッテンポプ「ムシビ  
ナド、九村二十二家アリ、又南四五里許、ラガレオ「ヨ  
リチキリ「ノ二村ニ、七家アリ、此邊皆黒龍江口ニアリ、  
遠淺ニテ、舟行頗ル苦シ、海水鹹シカラズ  
ゴエト「ヨリチキリ「リ凡十三里ト云、其間「チヤカ  
ガ井「ロツコゼ「ナド、七村十六家アリ、此処海水灣入シテ、

地勢未申ノ間ヲ指ス「八九里「ワカシ岬トナル、其間  
都テ遠淺ナリ、東方三里ノ外、一山アリ、山脉頗ル大ニ、  
南北ニ陵夷シテ、平山トナル、西方海ヲ隔テ山丹ヲ望  
ムニ、四五里ナルベシ、「ワカシ岬ニ至テハ、二里ニ過ズ、  
ボコベ「岬 山丹ヲ望ニ、一里半ニ過ズ、五家アリ、北  
ワカシ岬ヨリ、凡四里ニシテ、地勢「弓ノ如シ、其間二家  
アリ、  
ワゲ「岬 ボコベ「ヲ距ル「五、六里ニシテ、地勢又  
弓ノ如シ、岬頭ヨリ山丹ヲ望ニ、二里ニ過ズ、  
ナツコ岬 ワゲ「ヲ距ル「六、七里ニシテ、海面多ハ

遠淺ナリ、岬頭ヨリ山丹ヲ望ニ、三里ニ過ズ、ウシカヨ  
リ、ワゲルマデハ、都テ沙濱平坦ニシテ、落葉松ノミヲ  
産ス、隨テ南スレバ、隨テ繁シ、此ニ至テハ一木ヲ見ズ、  
風景極テ寂寥ナリ、

ノテト岬 スメレン夷九家アリ、東方山遠久、西方山  
丹ヲ望ニ、六七里ナルベシ、海上安穩ニシテ、山丹夷往  
來ノ津ナリ、北ナツロニ接シテ、一大灣トナル、陸行十  
五六里ト云、直徑五六里ニ過ズ、海底淺ク、潮時ナラデ  
ハ、往來シカタシ、  
ウヤロ 湖アリ、周圍ニ里許ナルベシ、湖傍スメレン

夷二家アリ、白主ヨリ、此際海岸、連綿トシテ山多シ、此  
ニ至テ、東北ニ一轉ス、地勢甚廣シ、海岸皆平砂ニテ、北  
ハテトニ連ナル、凡七里許、

ホエ 二家アリ、河傍ニ住ス、北一里ノ処、ワシリ岬  
アリ、灣曲アリテ、船ヲ泊スベシ、海岸皆山ニテ、弓ノ如  
ク、北ウヤロニ至ル、凡八九里、

タゲ 一河アリ、廣サ十間、深サ三四尺ナルベシ、河傍  
四家アリ、此ヨリ已内土人、ミナ蝦夷種ニテ、スメレン  
夷ヲ娶ル、風俗ハスメレンナルモ、其實蝦夷ナリト云、  
ホエヨリ岬ヲ過テ來ル、凡三里許、

アラコ井 澤中七家アリ、ロモウニ出ル路アリ、タゲヨリ、此際六里許ニシテ、海岸皆山ナリ、其間三家アリ、オチシ 大澤ニテ山遠シ、一河アリ、廣サ二十間、深サ四五尺ナルベシ、鱒多シ、河傍四家アリ、アラコ井ヨリ二里許、

ホンジヨ 海岸山下、石炭多シ、魯人來テ鑿モノ、三百人ニ下ラス三十家許アリテ、市井ノ勢ヲナス、田地アリ、午夢、大根、五升芋ナド、極テ繁殖ス、麥モ收實ノ功アリ、アラコ井ヨリ岬ヲ踰テ來ル、一里許、  
アタゲ 河傍三家アリ、ホンジヨヨリ、九七里許、海岸

皆山ニテ、巖石多シ、其中人跡ヲ通セザル処、一里許ナルヲ、チカピルト、名ク、  
キトウシ 高山アリ、島中第一ト稱ス、南面巖石嵯峨トシテ、絶頂ニ至ル、山下蝦夷一家アリ、アタゲヨリ、凡五里ト云、ホロコタンノ北、三里ノ処ナリ、  
ホロコタン 一河アリ、深サ四五尺ニ至ル、鱒アリ、地勢稍廣シ、蝦夷三家、スメレン夷一家アリ、西岸要害ノ地ナリ、南ナヤシヨリ、凡十五六里、  
ナヤシ 一河アリ、鱒多シ、スメレン夷一家、オウ南ウシヨリ、凡十九里ト云、一里ノ北、シルトタンナ井

アリ、魯人一家アリ、  
 ウシヨロ 地勢廣ク、百物繁殖ス、港内大船數十艘ヲ  
 容ベシ、鯨多シ、越州土井氏ノ開墾地ニテ、西岸第一ノ  
 要害ナリ、南久春内ヨリ、凡二十七八里、  
 久春内 其地船ヲ繫ベカラズ、氣候尤モ惡シ、魯人來  
 住ノモノ、年ヲ逐テ漸ク盛ナリ、南富内ヨリ、凡三十里  
 許、

富内 南嚮温暖ニシテ、百物繁昌ス、水土極テ美ナリ、  
 港内大船五六艘ヲ泊スベシ、鯨多シ、南自主ヨリ、凡三  
 十五里ノ処ナリ、

已上ハ大略ヲ揭示スルモノナリ、半島已南ハ世ノ  
 多ク知レル所ナルガユエニ、特ニ詳ニセズ、大抵奥  
 地ノ形勢、東岸真知床已北ハ北ニ向テサバカリ屈  
 曲ノ處ナク、西岸ハ灣曲多シ、又東岸ムシビヨリ、チ  
 ヤーモキマデ、西岸ホロコタンヨリ、ホエマデハ土  
 性水性共ニ宜シク、東岸又エコリ、西岸タムラオ  
 マデハ、水土美惡一ナラズ、ホエヨリ、ホコベ  
 ハ、赤濁水ノ多シ、又全島ヨ大別シ、蝦夷地方ヨリ、  
 東北奥地ヲ呼テ、ウ子ト云ヒ、ウ子ヨリ、蝦夷地方ヲ  
 呼テ、バラホウト云ヒ、東北奥地ヨリ、西北奥地ヲ呼

テ、ホツコニント云ヒ、西北奥地ヨリ、東北奥地ヲ呼  
テツロブント云フ、而シテ蝦夷ハ半島、巴南ニ住シ  
オロ、コハ東北奥地ニクブシハ東北奥地ヨリ、西北  
奥地ニ住ス、皆全種ナラズ、言語各異ナリ、スメレン  
ハ西岸ニ住ス、ニクブント全種ニテ、其語大全小異  
アリ、三種土人口數、總計五千許アルベシ、男女面  
目肌理内地ニ異ナラズ、婦女ハ別シテ美麗ナルモ  
ノ多シ、詳ナル丁ハ別ニ日誌アリテ譲リ置ヌ、余又  
嘗テソノ夏情ヲ論ジ、急務ヲ明シタル丁アリ、彼此  
参考シナハ益々奥地ノ忽ニスベカラザルヲ知ラ

ルベクヤ、其説左ノ如シ、

北蝦夷ノ 皇國領タル丁ハ、山海經ニ、北倭ハ黒龍  
江口ニ起ルト云ヒ、朝鮮ノ申叔舟ガ、海東諸國記ナド  
ニモ、 皇國ノ地、黒龍江ノ北ニ始マルト云シニテ、  
上世ヨリ外國人スラ會知シタルヲ思ベシ、元來彼地  
ヲ唐人島ト云ヘルハ、 本邦ヨリノ稱謂ニテ、奥地夷  
民ノ謠ニモ唱フルホドナレ、ル氏魯西亞ヨリチ薩哈連ト  
呼ハ、地夷等嘗テ辨知セズ、且、唐人島ト云ヘルハ、内  
地ニ唐津唐崎、韓泊ナドアル如クニテ、東韃ハ夷民ヲ  
構ズ、住居サセタルヨリ唱ヘタルハ異論アルヘキナ

ラズ、初テ蝦夷ニハ、本邦古言ノ存シテ、幣ヲ又サ、又  
 イナヲナド云ヘル類多ク、風俗モ、本邦ノ古風ナル  
 ガ、奥地ニ至マデ、蝦夷地名多ク、蝦夷種ノ散在セルハ、  
 現ニ、本邦ノ屬地タル証據ニゾアリケル、近年、官  
 府彼地ヲ開拓セシヨリ、地氣一新シテ、年々温暖ニ嚮  
 タルハ、實ニ不朽ノ盛舉ト云ベシ、願ハ此機會ニ乘シ、  
 一日モ早ク好處置ノアリタキモノナリ、竊ニ思惟ス  
 ルニ、今日内地ノ模様トシテ、乞丐ノ類ハ、必シモ言テ、  
 腰ニ長劍ヲ横タヘ、口ニ文書ヲ誦シツ、活計ノ為ニ  
 長喟大嘆セルモノハ、地トシテ在サル所ナシ、蝦夷ヲ

開テ、天下ノ人員ヲ融通シ、鰥寡孤獨ノ輩ニ、其所ヲ得  
 セシメンハ、内地ヲ安ズルノ第一急務ナラズヤ、而モ  
 北門ノ鎖鑰トナリテ、外夷ノ膽ヲ破リヌレバ、永世北  
 顧ノ患ナカルベシ、社稷ノ為ニ深慮センモノハ、必ズ  
 余ガ言ヲ虚妄トセザルベシ、  
 久春内ホンジヨ諸處滞在ノ魯人早已ニ數百人ニ垂  
 ニトス、向後浸潤シナハ、北地モコレガ為ニ繁華ノ地  
 トナルベシ、魯人其地ニ安着シテ、地夷等、本邦ニ望  
 ヲ絶ニ至ラバ、國力充實スルモ、コレヲ回復スルニ、名  
 義ナク、北地ノ鹿ハ、長ク魯人ノ手ニ落ベシ、今日ノ急

務ハ、一日モ早ク奥地ヲ開ニテ、才口、コ夷ナドハ、嘗  
 テ久春古丹ニ交易シタリシニ、目見ト稱シテ、毎年運  
 上屋マデ來リタルト云ヒ、又七年前ノ頃運上屋支配  
 人テフモノ、奥地ヲ見廻リシ時ニハ、首長ヲ始トシテ、  
 部曲嫁娶ノ媒妁ナドヲ頼マレシト云、又近年、魯人が  
 マー又井ニ家作シタルナド、イト不平ナル話アリ、ニ  
 クブン夷トテモ、本邦人ハ甚ダ親シク、魯人ヲ見テ  
 ハ、戸ヲ閉シ避匿シテ、從來全族ナラザル由ヲ主張シ、  
 一心ニ本邦ヲ慕ヘルハ、イカニモ外視シガタク、殊  
 ニ昔時ハ、寒氣凝結甚シク、地震雷電ナド、絶テ覺ザリ

シニ、近年ハ、時々地震シ、雷電アリ、燕雀ノ類モ、嘗テ見  
 ザリシニ、年々多ク産シ、氣候モ既ニ凌ガタキヲ覺ズ、  
 麻麥ノ類漸ク繁殖シ、水土ノ毒ニ中ラルモノナク、  
 本邦人ノ競テ彼地ニ赴ケル勢ナルニ、ソヲ導ケル策  
 ノ見エザルハ、何故ゾヤ、偏ニ恐クハ君子ノ力ヲ竭サ  
 レヌエエニヤ、江府ノ盛ナルモ、三百年前ハ、廣莫原野  
 ノミ多シト聞ク、大地球、幾千萬年ノ期限ナキニ、北地  
 ノ膏腴ナルガ、五十度内外ノ地ニテアレバ、向後何様  
 ノ上國トナランモ知ベカラズ、彼地本ヨリ本蝦夷地  
 全様ノ言語情俗ニテ、皇國ノ鞠民タルニ相違ナ

キハ、魯人トモノ、啖ヒヲナスベキ筈ナラデ、西洋紀元  
一千八百三十年、荷蘭ノ地圖ニ、全島ヲモテノ、皇國  
領ニシタル如キハ論ナク、英佛諸國ノ公議ニ任スル  
決シテ魯人ノ有ニ歸スベキニハアラ子氏、本地土人  
ノ、本邦ヲ戴慕スルヲ顧ミズ、化外ノ民ニ全シタラ  
ンニハ、何モテ、本邦ノ屬地タル名義ヲ存センヤ、深  
思熟考スベキ所ナリ、

北蝦夷ヲモテ、捕魚ノ外ニ見込ナシナド云ハ、斗宵小  
人ノ議ニテ、國土ハ人主ノ寶タルヲ通知セヌエナ  
レ、土アレバ是材アリ、何等ノ地ニテモ、物産ノ真ラザ

ル所アルベキヤハ、桑麻楮漆綿油薪炭材木ノ類、皆ソ  
ノ地ノ大利ヲ興スニ足ハ、固ヨリ歷舉スルヲ待ズ、矧  
テ北地ノ廣大ナル、午芴大根五升芋ノ類、皆繁殖スベ  
キヲヤ、サレ氏今日捕魚ノ利ハ、尤モ盛ナルモノナレ  
バ首トシテ務ズバアルベカラズ、今其大略ヲ揭示ス  
ルモノ左ノ如シ、堅艦アリテ自由ニ往來センニハ、萬  
ニ一ヲ失セザル利アルベシ、

北地漁場ハ、久春古丹ト富内ヲ第一トス、久春古丹領  
内ハ、鯧七千七百石、鱒三千九百石、西富内ハ、鯧四千石、  
鱒千石、昆布五百石、鱒三千束ノ見込ニテ、其價六萬六



千六百兩ナリ、サレ氏コレヲ漁スルニ、八四萬三千兩  
ヲ用ユルガユエニ、利分ハ實ニ二萬三千六百兩有餘  
ナリト、コハ昔日請負人ノ算セシ所ナリ、一説、久春古  
丹ハ、鯨一萬五千石ト、鱒四千石アリ、其價七萬二千兩  
ナルガ、コレヲ漁スルニ、三萬四千六百兩餘ヲ用ヒヌ  
レバ、利分凡三萬七千三百兩餘ナリト、コモ昔日ノ論  
ナレド、前説ニ比スレバ、稍實ヲ得ニ近シトス、而モ次  
年ヨリ前年ノ諸物ヲ用テ、新ニ買入ル、ニモ及ザル  
モノ多ケレバ、年ヲ逐テ利益ノ盛ナルヲ必セリ、サレ  
氏今日、國家ノ為ニ、北地ヲ開拓セントナラバ、奥地

ヲ先務トスベシ、或話ニ、東岸漁場ニテハ、鯨三千九百  
石、鱒七千七百石、鮭二千二百石ヲ漁ス、西岸ハ、鯨八百  
石、鱒四百石ニ過ズ、今日シツカニテハ、一胴ノ網ヲ用  
ユルゴトニ、鮭鱒八百石ヲ漁スルヲ通法トス、中ニ就  
テ、一割ヲ運上トシ、八十石ヲ去リ、一割五分ヲ運賃ト  
シ、百八石ヲ去リ、五分ヲ箱館諸雜費トシ、三十六石ヲ  
去テ、其餘ヲ賣ニ、江戸ニテ三千七百兩内外ノ相場ナ  
レバ、會所及ビ問屋口錢ヲ除テ、三千三百餘兩ノ利ア  
リ、サレド、最初漁場ヲ開ニハ、一千五百兩ヲ用ユルナ  
リト、余思ニ「スエノ鮭ハ、一萬石ニ下ルモノナラズ、」

ラバハルコニ等ヲ合スレバ、コレニ倍スベシ、一朋ゴ  
トニ、千石已上ヲ漁センハ、疑ヲ容ベキニ非ズ、タゞ大  
金ヲ用ユルニ非ザレバ、大利ヲ收ムルアタハザルノ  
ミ、而シテ其大法、一朋ノ網ハ、長サ百六十間アリ、コレ  
ヲ引ニハ、二十五人ヲ用ユ、四月ヨリ七月マデノ給料、  
一人ゴトニ十五兩扶持白米一人ゴトニ七合五勺ト  
積リ、塩ハ魚一尾ニ五合ト積ル、其外醃菜カウモノ四樽、味噌六  
樽、越後酒六樽、八升鍋及ビ一斗五升釜、製油大釜各二  
枚、平太舟二艘、小古綿服、葉烟草、膳椀、繩薦、大工道具等  
ヲ都合シテ、一千五百兩ヲ用ユレバ、十分ナラザル可

ナシ、サレド愉快ニ開拓セントナラバ、必ズ大艦ヲ用  
意セザルベカラズ、コレアレバ別ニ運賃ノ費ナク、船  
頭ナドノ用捨モナク、何等ノ策モ施行セラレベシ、鮭  
鱒ハ夏月ノ魚ニテ、其餘ハ暇日ノミ多シ、妻子ヲ携テ  
住居センニハ、土宜ヲ相テ麻蓐アサ人類ヲ作り、別ニ大利  
ヲ與スベシ、家作等ハ、何様ノ良製モアルモノナリ、互  
寒ノ地ニテ、誰某ガ凍死シタルナド、腐説ノアリナ  
ンハ、固ヨリ患ルニ足ラズナム

北地全島ノ外國人ニ異論アルベキ筈ナラサルコ  
ハ、上ニ陳スルガ如クナレバ、極北ニテ開拓センニ

モ、凌レテ挂念スル所アルベカラズ、又其魚類ノ極  
テ夥シク、時ヲ指テ來レルハ、恰モ時又種ノ生ユル  
トモ云ベキモノニテ、一度目撃センニハ、開拓セザ  
ルニ忍ビザル所アルベシ、サレバ捕魚ハ實ニ目前  
ノ利ト云ノミ、有志ノ天下後世ノ為ニ慮ルモノ、其  
身ハ匹夫タリト見ハ君子ナラザレベカラズ、余  
又窃ニソヲ擬セル一篇アリ、專ニ北地ノ為ニ言タ  
ルニハアラ子氏、北地ニ關係スル一ノ多キガ工工  
ニ、次ニ附録スベシ、余ハ儒者ニ非ズ、不文ヲモテ深  
ク咎ムルナカレ、

夫畫天下之大策、立國家之大節者、必其遠見宏覽、待百  
世而不疑者也、故夫英俊豪傑之言也、無不親切、而衆人  
視以為迂遠、其行也無不平易、而衆人視以為崎嶇者、唯  
其坐井蛙之見、而不達時措之宜也、吾意 國家今日  
之勢、莫急於蝦夷、蝦夷之地、當魯戎出沒之衢、魯戎謀深  
慮遠、駸駸蠶食、其害不啻英佛、而議者不察、視蝦夷以為  
不足深憂、置之不問、不思之甚也、抑又有說、方今中州兼  
治平之餘、偷安為風、淪胥日甚、譬諸人有痼疾、不斃不止、  
及今為之謀、亦恐非五年七年之所能挽回也、若蝦夷則  
不然、自 景行天皇之朝歸化、迄今將二千載、其名甚

舊其實未顯及松前氏割據猶多弊竇奸徒擅利不許人  
遷夷地以今觀之所謂天造草昧利建侯者也苟善開拓  
蝦夷據此以為之謀則可以制中土之變而興霸之業亦  
不難矣是不可不熟察也嘗竊籌之方今蝦夷之勢有至  
急者五焉請試言之自古英主建大業者必據地險苟微  
地險雖有智士無能為也蝦夷之地如石狩如厚浦決野  
廣坦百穀皆宜加之天然險阨要害無比若能率眾據此  
多製砲艦以固緒業疎網濶節以懷集人民則夫榛莽蕪  
雜之地可指日而闢矣如此則可以破外夷之膽而北方  
經略之基立矣是所謂至急者一也地着之法莫善於農

古人以屯田為美良為此耳如令東北諸州募貧民豐資  
以移之擇其通曉農事者十數人立為各處之長督眾樹  
藝五穀又植桑麻楮漆宜其土者以廣之利則彼將爭先  
奮進而不敢逃移矣蝦夷近海多鯨鯢春夏充溢淺渚号  
稱天下之最造大小船以服夫役兼捕獲之則其利亦大  
也如此則地着之民日多而兵食無不給矣是所謂至急  
者二也政之最先者莫先於生齒故古之善為政者必以  
生齒多寡為之賞罰也使島中之民男子二十而娶女子  
十七而嫁無一人有怨曠者又驅中土繁冗僧尼巫祝乞  
丐團頭及雜戶遊女年少血氣未定者以移之多至數萬

人為擇其配專夏生聚察文吏煩苛害下者而去之則夫寂寞閑居之族將望風而赴於夷地如此則人以安堵生齒繁殖之功可立而俟矣是所謂至急者三也往者北蝦夷之屬松前氏猶琉球之屬島津氏非二氏撫之即祖宗之所撫也自皇政不振三韓黷鞞將無回復之期豐臣氏患之嘗有征韓之舉及至東照宮痛艾邪教禁絕外人則諸侯各自封守不相往來隣國廣狹無能詳之如近世所製中州地圖猶未免有疎繆况於如北蝦夷者乎唯其夙為撫育之民故其言語風俗多與我上世相近而情交親密大非三韓黷鞞之比也今如募有志者士

着要害諸處其西岸則富內與葺城東岸則區春古覃鈴鹿縫江鰻原野以作麻麥開山道以通往來審其丘谷川澤險易迂直告知天下時率地夷航載土產之物互市於中國及四國九州之間如此則人皆知北地之不可忽而豪傑偉人將奮赴其地以為進取之計矣是所謂至急者四也蝦夷之地周回殆將二千里而夷民散處不盈三萬人愚昧游惰固無足賴者然亦為土地自有之民氣勇力強身體健剛能耐沍寒霜雪如教之國字嚴立課程終一課者從而賞之或別製曆皆以國字書之頒諸夷民使其記日知歲又教之技擊之法練磨習熟以供緩急之用如

此則彼皆為販俗之民而外夷不得藉口矣是所謂至急者五也凡是五者方今之不可不尤急者也夫蝦夷之地以天度算之南島自四十度至四十五度北島自四十六度至五十五度猶之荷蘭與英吉利之度數也方今荷英二國号为富庶蝦夷獨不如二國乎所以不如二國者人夷之未修也烏虜世人争目下之外利而遺國家之大計人夷之修誰任其責乎哉吾聞魯戎屢窺區春古覃假令魯戎而割據焉以漸迫我則我神州之左肱終不可奮而身首亦將從而受其弊也豈不危殆矣哉  
余嘗テ北地ノ為ニ勞シタルヲモテカアルモノヲ

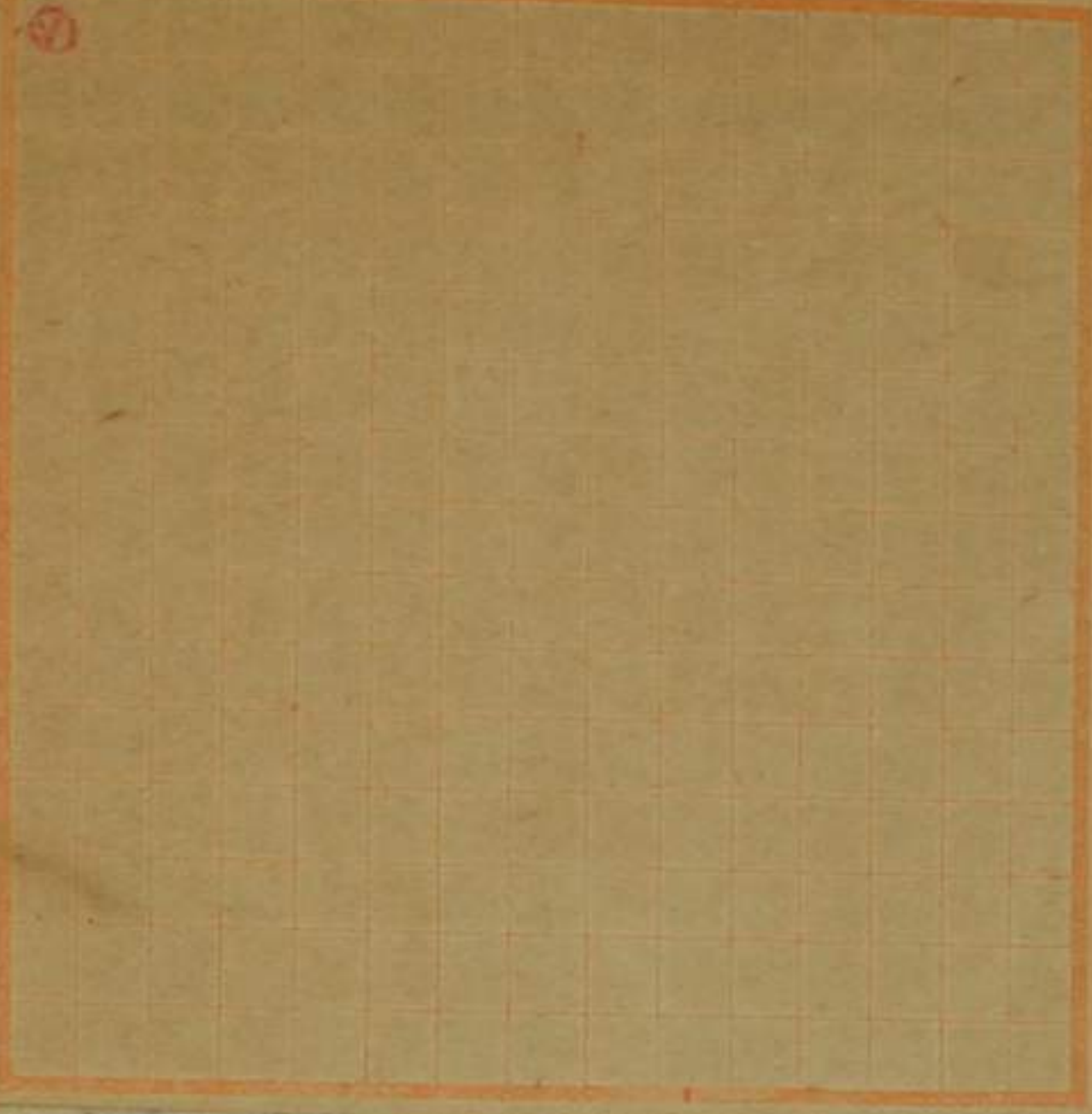
見テハ愚説ヲ陳セズト云フナシ余ガ説ヲ聞ク人始ハ慷慨奮發シテ為スフアラントスルガ如ク中ハ急屈ノ念ヲ生ジテ其夷ニ擔當セバク欲セズ終ハ用度ノ足ラザルヲモテ遁辞ヲナスニ至ル方今宇内一新ノ時節ニテアレバイカニモ多ク堅艦等ノ用意ナカルベカラズ薩摩ノ南ヨリ北地ニ至マデ僅ニ千餘里ノ間ナレバ大艦ノアランニハ池中ヲ往來センモ全一ナルベク固ヨリ開拓シガタキノ患アルヘキニアラ子バ余ガ上ニ論列セル策ナドモ凌シテ迂濶ノ談ニアラジ目前ノ小論ニ拘ハ

リテ、永世ノ長策ヲ後ニセンハイト、歎カシキナ  
 ラスヤ、大丈夫ノ天地間ニ為スコアラントスルモ  
 ノハ、吾輩ニ萬倍セル見識アリテ、浩然ノ正氣ヲ撓  
 サズ、偉功ヲ四海萬國ニ耀カシツベキホドニアリ  
 テコソ、真ノ愉快ト云ベケレ、昔並河天民ハ、一卒ヲ  
 提ゲ、蝦夷ヨリ滿洲ニ横行セント欲シテ、江府ニ出  
 願スル、三度ナリシガ、終ニ允サレザリシカバ、箱  
 根ノ關ヲ過シトキ、感慨ノ餘ニテコソアレ、芒碭山  
 雲獨自奇、為遊東海失歸期、無情最是關門吏、王者三  
 過曾不知ト、吟詠シツ、歸リタルト云、志アリテ國

家ノタメニ慮ルモノハ、誰モカクアルベキナレド、  
 匹夫徒步ノ身ナレバ、無眼ノ輩ハ、ソヲ狂疾アリト  
 評センモアラナンカ、カアルモノ、何ヲ挂念スベ  
 キヤハ、近世ニテモ某公ノミハ、自國ヲ獻ジテ蝦夷  
 ヲ領シタ久、建議シタマヘルトアリト聞、又、真ニ忠  
 肝義膽ナルカモ、有志ノ共ニ鑒トナスベキ所ニゾ  
 アリケル

北蝦夷新志 大尾

3年10月



北野新志

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a record or account, written in a cursive style.



一、...  
 二、...  
 三、...  
 四、...  
 五、...  
 六、...  
 七、...  
 八、...  
 九、...  
 十、...



